湊川隧道保存友の会会報 てんちょうちきゅう 第９号
発行日　平成 22 年３月１日
発行者　湊川隧道保存の会会長　吾妻　義信

左の写真は、吐口側坑門に掲げられた小松宮彰仁親王による扁額です。

「湊川隧道」雑感

兵庫県神戸県民局長　　藤　原　雅　人

明治維新で開港して発展する神戸では、湊川によって六甲山から吐き出される土砂で港が埋まる恐れがあり、湊川の高い堤防は東西交通の支障になっていた。さらには古来度重なる湊川の氾濫で洪水被害が生じていた。このため、明治29年8月の大水害を契機に「目下の急務」として、明治30年11月に始まった湊川の付替え事業は、同34年８月の完成までに4年間を要する難工事だったという。わけても、湊川隧道の工事は困難を極めたに違いない。

今日のような建設機械のない時代、ツルハシやノミといった道具で掘削し、トロッコやモッコで土砂を運び出すといった人力頼みの工事だったことは、想像に難くない。まさに、手作りである。

門外漢の私には、煉瓦積みの工法など当時の土木技術についての知識を持っていないが、側壁部の「イギリス積み」、アーチ部の「長手積み」、さらには天井部で「竪積み」といった特殊な技法が確認されているそうだ。そして水を流す川底部には花崗岩の切石が敷き詰められている。先人の英知に感服するほか無い。

隧道内部に立つと、先人への畏敬の念が百有余年の時空を超える気持ちになるのは私だけではないだろう。

県の保存検討委員会によると、阪神大水害、第2次世界大戦、さらには15年前の阪神・淡路大震災にも耐え抜いた湊川隧道は、築造当時としての技術的レベルは高く、歴史的、意匠的価値も極めて高いと評価されている。

吐口側の坑門には「天長地久」という扁額がある。「老子」の言葉で、「いつまでも続いて、絶えることのないように」という意味だそうだ。近代土木遺産としてその価値を末永く後世に継承していかねばならないと思う。

幸いなことに、この湊川隧道は、「防人(さきもり)」を得た。「湊川隧道保存友の会」の諸氏だ。同会の取り組みは、単に、土木構造物の管理、保存だけではない、先人の偉業を地域の歴史とともに次代に伝承し、様々な催し物を通じて、そこに集うひとびとを結び、繋いでいる。まさに、地域づくりだ。

この取り組みは、平成20年度の国土交通大臣表彰「手づくり郷土(ふるさと)賞」に輝き、神戸市の、そして兵庫県の「誇り」となった。同会の諸氏の高い志と情熱に衷心より敬意を表するとともに、引き続きのご活躍を期待してやまない。

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その１）

ご出演いただきありがとうございました!!

コーラス

日　　時：平成21年３月21日（土）
グループ名：兵庫童謡コーラス

私たちは、60代から80代の歌好きな仲間が集まり、介護施設等を訪問して、利用者の方々と一緒に童謡や唱歌を楽しく歌っています。地上とは違って幻想的な隧道の暗い足元や壁を伝う水の音に、緊張で足が竦む思いもありました。決して上手くは無い私たちが、保存会の方々のお世話で湊川隧道の中で歌うことができて感謝と感動で一杯です。コンサートやイベントに取り組む保存会の方々の熱い思いが感じられた一時でした。

吟詠・剣舞

日　　時：平成 21 年4月 18 日（土）
グループ名：鶴洲流鶴洲吟詠会

100年も前に誕生した湊川隧道、しかも煉瓦造りで中は幅約7m、高さ約7mの大空間でした。兵庫区新入居者のために催された兵庫区歴史ツアーで訪れ、ここでコンサートができないものかと相談し、快く了解されました時には欣喜雀躍でした。日本の伝統文化である吟剣詩舞の素晴らしさを知っていただきたい。諸先輩の方々には健康のため、生きがいや楽しみのために、若い方や子供たちにも舞台を通じていろんなことを学び知って頂き、日本の伝統文化を継承していきたい。海外では、日本の芸術的伝統文化を継承する外国人が増えています。日本の若い方々にもこの魅力を知って頂きたいのです。そして、湊川隧道も地域の方々だけではなく、日本中の方々に知っていただきたいと願わずには居られません。

オカリナ

日　　時：平成 21 年5月 16 日（土）
グループ名：鷺鳥クラブ

「闇涼し　トンネルで吹く　土の笛」

隧道の奥の闇からくる五月にしては冷たい風が私たちのオカリナの音を乗せ、それが側壁に反響して流れていきました。オカリナは楽器にしては珍しい陶製で、土を焼いて作ったレンガと相性がいいのです。私たちは、仕事と子育てが終わった半老人の楽しいグループです。演奏が終わって外に出たら、六甲山にはもう夏の雲がかかっていました。

「オカリナの　笑えば吹けぬ　雲の峰」

吟　　詠

日　　時：平成 21 年5月 16 日（土）
グループ名：関西吟詩文化協会　昭和吟詠会

昭和吟詠会は湊川隧道近くの熊野神社が発祥の地（昭和三十年設立）で、五十年余、吟詠活動に励んでまいりました。役員会を湊川ふれあい会館で行っていたところ、隧道でコンサートをしてみませんかというお誘いを受けました。早速、漢詩「春望」「大楠公」などに和歌等を交えた構成吟をやることに決めました。当日出演した二十名の会員は、隧道の中ではマイク設備はなくても響きのよいことに驚き、舞台の上で大きな声で気持ちよく吟じることができました。この素晴らしい体験をさせていただいた関係者の皆さんに感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その２）

ご出演いただきありがとうございました!!

フォークギター

日　　時：平成 21 年6月 20 日（土）
グループ名：ぽぽむ

「ぽぽむ」はフォークソング好きの四人組で、ボランティアでのみ活動しています。この日は、SUN-TV・「神戸情報館」(神戸市運営コミュニティー誌)の取材が入っており、事前にインタビューを受けるであろう事も伺っていましたが、何をお話ししたのか思い出せないのは、それなりに気分が高揚していたのでしょう。湊川隧道は100年を経て重厚な時代の風格を備え、所々の煉瓦に浮かび上がる黒いしみや当時のままの彩色を思わせる鮮やかな紅色の煉瓦の思っていたよりも大きな異空間でした。 アコースティックギターの音が程良く響き、二人の歌姫の歌声が気持よく伝わって行きます。 “ヘッドライトテールライト”をお客さん達と共に歌い楽しむ、ギターをがむしゃらに弾き、恍惚感に満たされ、自分が自分で無くなる瞬間が来る。その時、一陣の風が吹き我に引き戻される、その時に全身で感じた湊川隧道は生きていると。

オカリナ

日　　時：平成 21 年7月 18 日（土）
グループ名：オカリーナ・アミカ

昨年出演させていただいたアミカの仲間たちから、隧道の音の響きの良さを何度も聞いていたので、「隧道ってどんなところだろう？」と期待に胸を膨らませていました。私たちの出演が決まってからは、あまり好きでない基礎練習も、苦手な曲も今までとは違う意気込みでがんばりました。待ちに待った本番ではお腹に力を入れ、しっかりと音を支えて演奏したつもりです。本当に今まで経験したことがない音の響きを実感し、我を忘れるほどの感動でした。貴重な体験をさせていただき感謝でいっぱいです。

ハーモニカ

日　　時：平成 21 年8月 15 日（土）
グループ名：尾路　進

子供の頃よりハーモニカを吹き始めて、７０年余りとなりますが、その間いろいろな出会いがありました。中でも戦後焼野原で吹いた記憶は心に焼きついております。今回兵庫区ボラセンの紹介により隧道内で演奏する事になりましたが、ハーモニカは音が小さいのでマイクなしではお客さんに聴こえるか心配でした。音を出してみると、それはそれは澄みきったよく通る音になったので驚きでした。適当な湿度の吸音効果であろうか、風呂の中での発声はよく響くとの事ですが、とにかく気持ちよく演奏できた事は、よい経験をさせて頂き感謝しておる次第です。

アコーディオン

日　　時：平成 21 年8月 15 日（土）
グループ名：垣内　豊

兵庫区ボランティアセンターから出演依頼があり、過去63年間各地各種のステージを経験してきましたが、トンネル内で演奏するのも変わっていて、面白く、楽しめるのではないかと考え、歌謡曲を演奏することにしました。トンネル内では良く響き、ただ湿度が高く、指のすべりが悪く苦労しました。アンコールもいただき、無事弾き終わることが出来ました。良い思い出となることと思っております。ありがとうございました。

三味線・民謡

日　　時：平成 21 年8月 22 日（土）
グループ名：千鳥会

三味線の音が、天井に伝わってトンネルの入り口まで響いています。「心清めて拍手打って　臼の抜けるほどついておくれ～～～」と神戸にちなんだ「灘の酒造り祝い歌」を唄うと観客席から「どっこいどっこい」というかけ声がかかります。真夏とはいえトンネル内は15度前後、ひんやりした空気の中、ここには人とのふれあいがあり、活気が満ち溢れ楽しい雰囲気に包れていました。私たち三味線・民謡グループ「千鳥会」は発足してまだ１年ほどです。皆様の前で披露できたことを本当にうれしく思っています。ありがとうございました。

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その３）

ご出演いただきありがとうございました!!

オカリナ

日　　時：平成 21 年9月 19 日（土）
グループ名：グループ浜

“湊川隧道”兵庫区に居住している私は名称は熟知していますが、この様な立派な近代建築物が中に秘んでいるとは…。技術の素晴らしさに、唯驚くばかりです。入口からゆるやかな下り坂になり、両壁には写真等の説明書が展示、少しづつ薄暗くなると、天井の高いアーチ型に敷きつめられた煉瓦、足元には歩きやすい様に木製の通路に明かりが灯されて、幽玄の世界に入って行く途中に舞台がしつらえてある。煉瓦と切石、木のぬくもり、土で作られたオカリナの音色が自然にマッチすると同時に、観客の歌声が響きわたり、美しいハーモニーをかもし出してくれます。この場所でしか味あえない光景です。この度は素晴らしい場所を提供して頂き、貴重な体験をさせて下さり感謝いたしております。偉大な建築物を一人でも多くの市民に見て頂き伝えていければと思っています。保存友の会の皆様を始め地域の方、行政が一体となり継承していきたいものです。ありがとうございました。（船越福子）

津軽三味線

日　　時：平成 21 年 10 月 17 日（土）
グループ名：静龍会

久しぶりの「会下山トンネル」でした。私どもは地元で秋山先生の指導で三味線を習っております。私は震災復興の河川工事中に神戸土木事務所に勤務していた事があり、神戸電鉄直下の難工事等が思い出されて懐かしい思いで演奏会場に向かいました。当時はまだ習っていなかった三味線をここで演奏することになろうとは想像もできないことでした。三味線は湿気に弱く音程が変わりやすいので水滴に気を使いながらの演奏になりました。途中「糸」が切れて演奏が乱れましたが皆さん熱心に聴いて頂きまして感謝しております。(西村培史)

木管五重奏

日　　時：平成 21 年 11 月 21 日（土）
グループ名：ゴレンジャークインテット

以前に湊川隧道のことを聞き、一度中に入ってみたいと思っていましたので、コンサートのお誘いが来たときは、とても本番当日が楽しみでした。隧道内は、今まで体験したことのない不思議な響きで、冒頭のホルンの音が出ると思わず周りを見回してしまいました。音に包まれている感じで、今までのどのホールよりも演奏しやすい、そんな印象でした。知り合いで聴きに来てくれた方達に聞いたところ、演奏もさることながら湊川隧道に興味を持って来られた方が多かったようで、そうした意味では、この隧道のＰＲに微力ながらお役に立てたのでは、と思っております。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。（大沼正史）

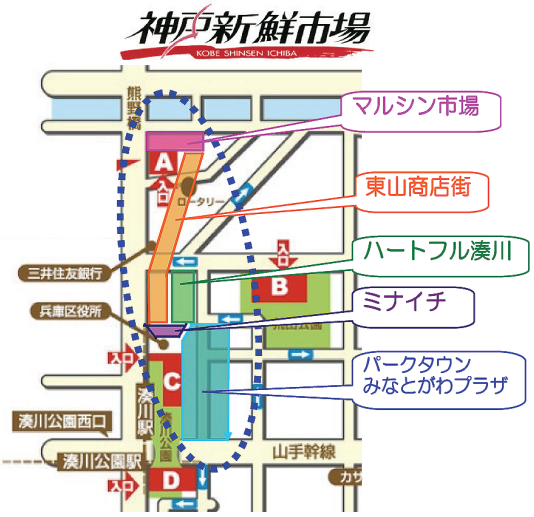
クラリネット＆ファゴット・ひょうたん笛

日　　時：平成 21 年 12 月 19 日（土）
グループ名：四季大香

グループの多彩なメンバーの中から、3種類のリード楽器の奏者が出演しました。当日は厳しい寒波が襲来し、トンネル内も伴奏のキイボードから湯気があがるのが見えるほどの冷え込みでしたが、多くのお客様を迎えました。1部では、クラリネット・ファゴットとキイボードの紡ぎだす昭和の美しいメロディーに身をゆだね、Ⅱ部では、子どもたちのハンドベル、コブクロの歌まで飛び出した後、中国雲南省から来た少数民族のひょうたん笛が語りかけるように歌うのを楽しんでいただけたことと思います。出演者にとっても、快い残響と遠いエコーを聞きながら時空を駆けるような貴重な体験となりました。湊川隧道保存友の会のみなさまの多大なご尽力に深く感謝申し上げます。

地域の紹介⑤

神戸の台所‘神戸新鮮市場’



湊川隧道から東の方へ約400m、たくさんの商店が集まって神戸きっての賑わいをみせるエリアが、神戸の台所として知られる‘神戸新鮮市場’。‘神戸新鮮市場’は、3つの市場と2つの商店街の連合体で、その広さは、南北500m東西100mの範囲にわたっている。北から『マルシン市場』、『東山商店街』、『ハートフル湊川』（湊川中央小売市場）、『ミナイチ』（湊川市場）、湊川商店街の『パークタウン』と『みなとがわプラザ』があり、店舗の数を合わせると約500。関西随一の多さでこれら店舗が競い合うように平日休日に限らず活況を呈している。師走、年の暮れは買い物客で賑わう風景がマスコミに取り上げられて、神戸の風物詩にもなっている。以下、神戸新鮮市場プロジェクト広報担当の園佳隆さんの説明を参考にしながら「神戸の台所‘神戸新鮮市場’」を紹介します。

‘神戸新鮮市場’のあゆみ

戦後間もなく生鮮食料が統制下にあった頃からこの地域に多くの商店が集まり始め、初めは仮設店舗だった市場も高度経済成長に支えられて現在の姿に。平成５年、東京アメ横、京都錦、大阪黒門といった8つの市場が集まって「全国有名市場サミット」が神戸で開催され、‘神戸新鮮市場’の名称を全国に発信し、積極的な活動が展開されてきた。ただ、阪神淡路大震災後は、不況のせいもあってか買い物客の数は減っている。往年の賑わいを記憶している年配の店主の話では昔の半分以下とか。このため震災復興基金による‘まちのにぎわいづくり一括助成事業’も受けるなど次世代を担う若手商店主による活性化も始まっている。

歳の暮れの買い物客で賑わう神戸新鮮市場
神戸新聞より（2009.12.31朝刊一面）

店舗の様子

商店は、鮮魚、精肉、野菜などの生鮮食品、惣菜の他に、生花・園芸、衣料品、医薬品、結納品、チケット、ホルモン焼、喫茶、食堂など何でもそろっている。生鮮食品は、新開地や三宮周辺地域の飲食店が仕入れに来るぐらいで、‘神戸新鮮市場’は、品質、安さ、品揃えと三拍子揃ったまさに神戸の台所。

‘神戸新鮮市場プロジェクト’で地域と連携した取り組み

地域とのつながりを大事にしながら、商店街の夏祭りなどの恒例行事をはじめ、若手によって‘神戸新鮮市場プロジェクト’として多くのイベントが行われている。湊川公園で「夜桜の集い」、新湊川まつりに協賛する出店、新型インフルエンザの風評被害を払拭する「いこう神戸」キャンペーン「ミナトガワニイコウ」の開催、‘神戸買っ得’商品券のＣＭ出演、湊川新開地との連携など。「ミナトガワニイコウ」では神戸サンバチームの商店街練り歩きとビンゴゲームが好評を博した。また、商店街の枠組みに関係なく結成された「湊川やるで委員会」は、エコバッグの製作やニガウリで緑のカーテンを作るなどエコを啓発している。商店街の夏祭りで市場の坂道を利用した‘そうめん流し’は、子供たちに大好評。他にも「やるで新聞」発行や「やるでビール」発売など様々な活動を通して新鮮市場の魅力を発信している。

明日にむけて

郊外大型店舗の営業、都市部の少子高齢化による人口減少、食スタイルの変化、若い世代の対面販売の敬遠など、買い物客の減少は避けられない状況にあるとか。だからこそ地域と連携し、買い物客のニーズをしっかり把握しながら、知恵と力を出し合って他にはない元気で人情味あふれる商店街づくり目指して頑張っている。

【交通】神戸電鉄湊川駅又は、神戸市営地下鉄湊川公園駅で下車。
市バスなら7・9・11・61・65・123・150系統を利用。
【駐車場】上図のＡＢＣＤを利用。

神戸新鮮市場の魅力を発信中!!
http://www.kobe-shinsenichiba.com

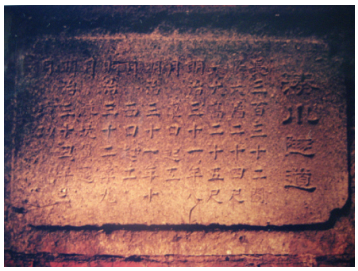
‘湊川隧道’‘湊川トンネル’‘新湊川トンネル’もうひとつの‘湊川隧道’

‘隧道’は、‘トンネル’の和語であり意味は同じです。私たちは、この字を‘ずいどう’と読んでいますが、広辞苑によれば、正式な読み方は‘すいどう’のようです。

さて、‘湊川隧道’は、私たち友の会の会員であれば、現在ではあたりまえの名称になっていますが、一般の方々にはまだなじみがないようです。昨年11月、長田区内で高齢者の方々に湊川隧道の話をさせてもらったのですが、講演を終わって出席者のお一人から「私は、湊川隧道は湊川公園のトンネルのことだと思っていた」とのこと。確かに湊川公園の下をくぐるトンネルの銘板は、‘湊川トンネル’となっています。紛らわしい話ですが、以下、表題にあげた４つのトンネルについて紹介します。

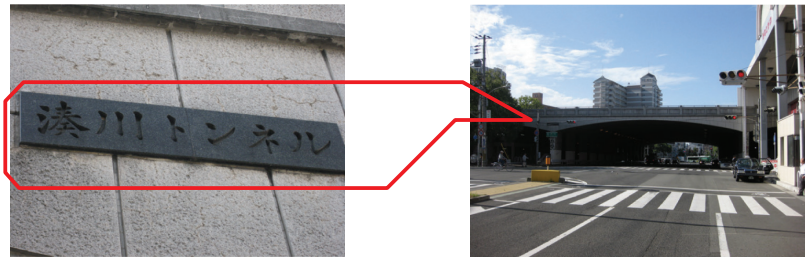
湊川隧道

現在、一般公開されている‘湊川隧道’は、震災前までは‘会下山隧道’、‘会下山トンネル’とされ、神戸市史にもそのように表記されている。阪神・淡路大震災で被災したため、新しいトンネル（新湊川トンネル）が完成してその役目を終える。しかし、トンネルの持つ歴史的経緯、当時の技術的価値、意匠的価値を評価し、近代土木遺産としての価値を有することから保存することになった。それまで会下山隧道（トンネル）と馴染まれていた名称を、なぜ‘湊川隧道’にしたのかは、前述の調査を進める中で、湊川を付替えた先人たちはトンネル内に右の写真にあるように「湊川隧道」と刻んだ工事歴板を残していることがわかったからである。なお、この工事歴板は震災で損傷した部分を補強するコンクリートに覆われて現在は見ることができない。



湊川トンネル

湊川公園の下を通るトンネルが、‘湊川トンネル’である。明治34年に湊川が付替えられた後、その川筋は多聞通から南側の堤防が撤去され、北側（現在の湊川公園付近）は堤防高さまで埋め立てられて、現在のような土地の形状になった。この高さは約７～8mあり、当時の堤防の高さである。その後、大正時代になると、市内に市電が開通するが、大正10年に開通した山手上沢線は、湊川公園の下を潜らなければならなかった。このために建設されたのが「湊川トンネル」である。土木構造物としては橋梁の形式であるが、通り抜ける市電側からみればトンネルである。このトンネルは、昭和45年に新しく作られて現在にいたっている。このため、兵庫区や長田区に住み、昔を知る人たちは、他の街中では見られないこの独特な橋の姿を、現在でも‘湊川トンネル’として親しんでいる。



現在の湊川トンネル

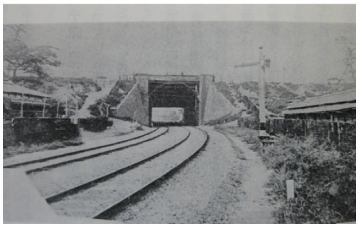
昭和40年頃の湊川トンネル ▲
（市民のグラフ「こうべ」No.231より）

新湊川トンネル

震災で被災した湊川隧道に替わって新しく完成した現在のトンネルであり、平成12年12月から新湊川の水を流し続けている。なお、上流（呑み口）、下流（吐け口）の坑門のデザインは、湊川隧道の意匠をイメージ復元している。

もうひとつの湊川隧道（鉄道）

神戸と兵庫を結ぶ山陽鉄道が、明治22年に開通する。このとき、鉄道は、湊川の川底を横断するために、当時、長さ約70m（推定）のトンネルが作られた。神戸開港30年史によれば、このトンネルの名前は「湊川隧道」である。その後、湊川の堤防が撤去される明治38年頃まで供用された。今となっては地図と写真でしか見られない幻のトンネルである。



（「海鳴りやまず」第1部より）

佐々木良作（湊川隧道保存友の会）

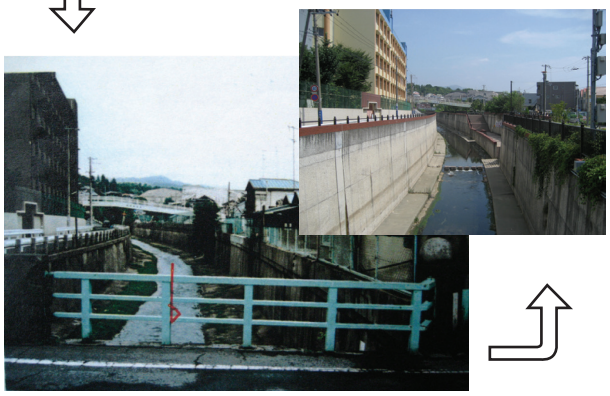
写真で見る昭和（戦後）の新湊川

戦後、高度経済成長する社会にあって、新湊川の姿も時代を反映して変化してきましたが、震災復興による河川改修でその景観は大きく変わりました。これまでの出版物などから懐かしい新湊川を紹介します。

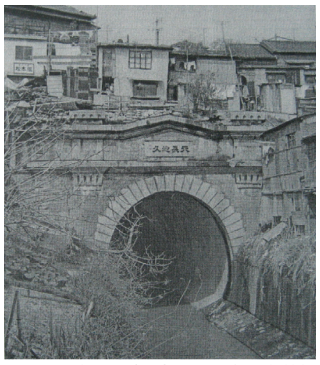
昭和30年代頃の長田橋から上流
（市民のグラフ「こうべ」No314より）

昭和30年代頃の室内橋から上流
（「長田の歴史」より）

昭和60年代頃の長田橋から上流
（兵庫県神戸土木事務所提供）



昭和60年代頃の室内橋から上流
（兵庫県神戸土木事務所提供）



昭和30年代頃の吐口側坑門
（「夜明けの人々」朝日新聞神戸支局編より）

昭和60年代頃の吐口側坑門（兵庫県神戸土木事務所提供）

昭和60年代頃の氷室橋から上流
（兵庫県神戸土木事務所提供）

昭和56年頃の氷室橋から下流
「マルシン(丸神商業協同組合)の歩み」より

昭和60年代頃の洗心橋から下流
（兵庫県神戸土木事務所提供）

湊川流域歴史物語⑨

「蟹川」と「ドンドン川」

田辺　眞人　（園田学園女子大学名誉教授）

神戸地方では開港直後から市街化が進み、居留地の西境を流れる鯉川、大倉山の東から神戸町（旧神戸・二ツ茶屋・走水の３村）の西を流れる宇治川、多井畑峠から須磨寺門前を流れる千森川など一部の河川は、蓋がけされて暗渠になった。現在の鯉川筋や宇治川商店は、その暗渠の上を利用して作られた街かどなのである。

さて、鯉川筋や宇治川商店街ほどに市民には知られていないが、かつての川筋が暗渠になって、雨水を流す下水道の役目を果たしているものもある。兵庫区の「蟹川」や「ドンドン川」も、そのような例である。

「蟹川」は'ガニガワ'と呼ばれ、明治時代の地形図でその流路をたどれば、兵庫区の荒田町から南下し、今の新開地の東方から中央区の東川崎町方面へと流れている。現在では、湊小学校西側で開渠（右写真参照）になって神戸港に注ぐ雨水幹線になっている。暗渠であるため、新開地の東にこんな川があることを知る市民は少ない。この暗渠を管理する神戸市は、その上を歩く市民に「蟹川」の存在をわかってもらおうと暗渠の上の路面舗装に川の流れをイメージしたデザインにしている。この街路は「都市計画道路・福原線」と呼ばれているが、今からでも、鯉川筋にならって「蟹川通り」という愛称を付けてはどうだろう。ところで、太平洋戦争直後には神戸電鉄を福原線に沿って湊川駅から国鉄神戸駅に高架で延伸させ神戸駅に乗り入れさせる計画があった。この案は財政面から断念されたが、後年に神戸高速鉄道が実現し、その新開地駅まで地下乗り入れをしたわけである。半世紀以上を経た現在、モータリゼーションの影響などで神鉄粟生線は乗客の半減のため、存廃の岐路に立っている。仮に50年以上前の神戸駅乗り入れ案が実現していれば、事情は変わっていたかもしれない。

一方、「ドンドン川」というのは、東山商店街の西の坂を川崎病院の方に下った南側にある小川で、その上下流は暗渠になっているが、市立楠高校の北西外側で、一部地上に露出している。この部分は花崗岩の切石で築かれた立派な溝である。私が小学生の頃つまり昭和30年ころには、私の祖母など近隣を知っている人々は、これを「ドンドン川」と呼んでいた。子供心に妙に印象的な名だった。湊川が付替えられるまでは、菊水町や湊川町あたりの雨水は、湊川の「く」の字形カーブの南にあった川池の西側を流れ下っていたが、付替えた新湊川の堤防で流路が妨げられてしまうため、そこを流れる雨水を南方に流すために、新湊川の河底を潜る暗渠が作られたのである。現在見える溝は、この暗渠の流末である。作られた当時の暗渠は煉瓦巻きの構造であり、今でも丸神市場の地下に残されている（右写真参照）。この水路を流れる雨水は、永沢町雨水幹線と呼ばれる水路で兵庫港に注ぐが、上沢、下沢、永沢、三川口といった湿地・河川にちなむ地名の残る低い地形に沿っていることを考えると、あたかも古湊川が流れていたと想定されるルートと重なるようで興味深い。

（神戸市建設局下水道河川部提供）

これら旧湊川を挟むようにして東西の堤防沿いに流れていた二つの水路は、天井川だった旧湊川の後背湿地の余水を流す小さい水路だったのだろうが、神戸の町の市街地形成の歴史を伝える貴重な資料でもある。

湊川隧道について⑨

明治期における神戸の三大土木事業と神田兵右衛門（こうだひょうえもん）

佐々木　良作（㈱建設技術研究所）

神田兵右衛門（1841 ～ 1921）は、播州大塩村に生まれ、兵庫の旧家神田家の養子になり、1871 年（明治 4）に家督を継ぐ。明治元年には新政府と幕府派の姫路藩との間に入って帰順をめぐる斡旋に奔走した。兵右衛門は、明治維新後の兵庫で、会計官御用掛、兵庫津名主、区長、市会議員などを歴任し、教育の普及、産業の振興に活躍しながら神戸における主要な事業に関わっている。

昔から和田岬沖は海の難所とされ、兵庫港は和田岬大きく廻らなければ入港できないという不便もあった。兵右衛門は、その対策として現在の島上町から駒栄町に至る運河を計画し巨額の私財をつぎ込んで 1875 年（明治８）に新川運河を完成させる。運河に囲まれてできた土地は、中之島と呼ばれるようになる。その後、兵右衛門の計画は引き継がれ、八尾善四郎らによって 1899 年（明治 32）に現在の兵庫運河が完成する。

一方、発展する神戸市の水道事業は、1896 年（明治 29）に国の認可を得たのち、1900 年（明治 33）に日本で７番目の近代水道として開始される。この間、兵右衛門は、水道委員長として内務省に補助金の請願要求などに献身的に携わっている。水源池として 1900 年（明治 33）に五本松堰堤（布引ダム）、1905 年（明治 38）に立ケ畑堰堤（烏原ダム）が完成する。布引ダムは、日本で最初の重力式コンクリートダムであり、国の重要文化財に指定されている。

また、兵右衛門は、明治の初め頃から北風正造、藤田積中らと神戸と兵庫の東西交通を妨げ、神戸港に土砂を流し込む湊川の付替えの必要を関係者に訴えていた。1887 年（明治 20）頃から藤田伝三郎らによって付替えの申請がなされていたが、兵右衛門は、1897 年（明治 30）に小曽根喜一郎、村野山人ら兵庫、神戸の財界人に大倉喜八郎ら東京、大阪の実業家が加わった「湊川改修株式会社」の設立にも関わっている。湊川隧道（会下山トンネル）の築造と苅藻川の拡幅を含む延長約 4.5 ｋｍの付替え事業は 1901 年（明治 34）に完了する。湊川隧道は、当時としては世界的規模の大きさで日本で初めての河川トンネルである。

このように兵右衛門は、兵庫運河（新川開削）、水道事業、湊川付替事業という明治期における神戸の三大土木事業とされるインフラ整備に貢献した中心的人物である。兵右衛門の永年の功績を後世に伝えるため、2011 年（明治 44）、和田神社境内に「神田翁彰徳碑」が建てられた。額字は兵庫県知事服部一三の篆書、文章は大阪の儒学者藤沢南岳の撰であり、石材は讃岐牟礼村から特別に切り出したものである。

平成21年度の活動報告

【平成20年度総会・講演会】

日　　時：平成21年３月21日（土）10：00～12：00
場　　所：新湊川河川防災ステーション内（新湊川ふれあい会館）
参加者数：65名

講　演　会

講演者：西田　一彦　先生（関西大学名誉教授）
演　題：『歴史を生かす安全で美しい国づくり』

西田先生は、地盤工学会関西支部長、同遺跡の保存技術委員会委員長などを務められ、地盤工学、土木史、遺跡の保存技術などの専門分野で活躍されています。今回の講演では、先生が長年、調査・研究されてきた経験と知見をもとに、土木遺産のとらえ方、見方について、狭山池、大和川、大阪城の石垣などの多くの事例紹介をしながら、土と石でできた古い土木構造物の築造技術を解明することで得られる情報は、‘技術の遺伝子’とも言えるものであり、歴史学、考古学への寄与、修復・保存技術への応用さらには現代技術への応用に役立っているといったことなどについてわかりやすくお話いただいた。なお、西田先生は、兵庫県の「会下山トンネル保存検討委員会」の委員長をお務めいただいた経緯から現在も「湊川隧道保存友の会」の顧問としてお世話になっています。

※21年度総会・講演会（3月13日）では株式会社コンチェルト社長の南部真知子様の講演を予定しています

【消防訓練①】

日　　時：平成21年３月21日（土）15：00～15：30
参加者数：約30名（一般参加者含む）

兵庫消防署及び湊川隧道の防火管理者である神戸土木事務所の川崎河川課長の指導により初めて隧道内で防火訓練を実施した。内容は、ミニコンサートの公演終了時をもって「火災発生」を想定し、参加者も一緒になって通常の歩行速度で避難行動を行った。全員が避難する時間は６分８秒だった。

【備品整理＆周辺清掃】

日　　時：平成21年８月１日（土）15：30～17：00
場　　所：湊川隧道内及び周辺
参加者数：26名

猛暑の中、湊川隧道内の備品整理及び清掃、隧道周辺の草刈り及び清掃を実施した。当日、神戸土木事務所から貸与されている備品倉庫の屋根がいたずらで損傷し、雨漏りのためアンプなどに被害があることがわかった。警察に通報する一方で、土木事務所に修復をお願いしたところ、現在では元通りになって周囲に進入防止の金網も張られている。

【消防訓練②】

日　　時：平成22年１月22日（金）9：30～10：30
参加者数：11名（友の会）

毎年、1月26日の「文化財防火デー」（※）を中心に、文化庁と消防庁は連携、協力して全国各地で防火訓練などの文化財防火運動を展開している。今回は兵庫消防署の文化財防火デー広報訓練の一環として、神戸土木事務所と「湊川隧道保存友の会」が参加して訓練が実施された。訓練は、演奏会の準備中に照明器具から火災が発生したことを想定して、火災発生の通報、消火活動、避難行動、倒れた人の救出、最寄りの消火栓からホースを繋いで隧道内に引き込んで実際に放水するといった内容であり、終了後は、前田所長、新屋兵庫区長の挨拶の後、藤原兵庫消防署長から総括の報告があった。

※「文化財防火デー」の制定は、昭和24年１月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し、壁画が焼損したことが契機になっている。

【一般公開＆ミニコンサート】

開催日	内　　容	出　演　者	入場者数	スタッフ数
平成21年３月21日㈯	コーラス	兵庫童謡コーラス	106名	21名
４月18日㈯	吟詠、剣舞	鶴洲流鶴洲吟詠会	87名	12名
５月16日㈯	オカリナ	鵞鳥クラブ	79名	12名
	吟詠	昭和吟詠会		
６月20日㈯	フォークギター	ぽぽむ	98名	14名
７月18日㈯	オカリナ	オカリーナ・アミカ	93名	15名
８月15日㈯	ハーモニカ	尾路　進	54名	15名
	アコーディオン	垣内　豊		
８月22日㈯	三味線・民謡	千鳥会	71名	15名
９月19日㈯	オカリナ	グループ浜	82名	13名
10月17日㈯	津軽三味線	静龍会	136名	12名
11月21日㈯	木管五重奏	ゴレンジャークインテット	177名	15名
12月19日㈯	ｸﾗﾘﾈｯﾄ&ﾌｧｺﾞｯﾄ･ひょうたん笛	四季大香	94名	13名
平成22年１月16日㈯	【一般公開のみ】		44名	5名
２月20日㈯	【一般公開のみ】		46名	8名
合　　計			1167名	170名

※　3月21日は、２０年度行事であるが、集計上の都合で２１年度分として記載している。

平成22年度の行事予定

一般公開の日時と予定しているミニコンサートの内容と出演者は、下記のとおりです。

開催予定日	内　　容	出　演　者	備　考
平成22年３月20日㈯	ピアノ・歌・フルート	あんだんて	21年度行事
４月17日㈯	木管五重奏	ゴレンジャークインテット	
５月15日㈯	クリスタルボウル	花音	
６月19日㈯	クラリネット	新暁子・酒井舞子・中平沙希	
７月17日㈯	三線・エイサー	美らさんず	
８月21日㈯	歌・ギター	まるしん	
８月28日㈯	フルート	木原三知子	
	ケーナ	福岡良一	
９月18日㈯	キーボード	そらいろ楽団	
10月16日㈯	管弦楽五重奏	神戸市民交響楽団有志	
11月20日㈯	フルート	南部やすか	
12月18日㈯	オカリナ	鵞鳥クラブ	
平成23年１月15日㈯	【一般公開のみ】		
２月19日㈯	三味線	ねこ	
３月19日㈯	未定	未定	

※　**一般公開の時間は13：00～16：00、ミニコンサートの演奏時刻は13：30～、14：30～の２回を予定します。**
※　22年度の総会は、平成23年３月に予定しています。

賛助法人会員紹介　㈱エイト日本技術開発・大成建設㈱・㈱建設技術研究所
社会福祉法人海光園・社会福祉法人神戸光有会・㈱サニー商工

役　員　紹　介

顧　　問：西田　一彦、田辺　眞人、久武　勝保、大野　忠昭
相 談 役：神吉　和夫
会　　長：吾妻　義信　　副会長：佐々木　良作
事務局長：市成　準一
会計監査：川崎　芳雄、渡辺　　保
会　　計：上野　展子、永喜　美代子
理　　事：池田　純作、佐藤　圭吾、西海　伸行、長谷川　健
幹　　事：大井　政勝、北川　佳代子、新谷　和、武田　芳則、谷川　勢昇
原　英雄、平口　正治、松井　栄三郎、山田　英之

湊川隧道保存友の会事務局

http://www2.kobe-u.ac.jp/~midori/minatogawazuidou.html
事務局：〒657-8501
神戸大学都市安全研究センター
「湊川隧道保存友の会」事務局
市　成　準　一
ＴＥＬ：090-5255-6288
ＦＡＸ：078-803-6394